

病虫害発生予察 8 月月報
(生育概況及び病虫害の調査結果)

令和 8 年 8 月の気象表 (長野地方気象台発表)

官署等		平均気温 ℃			降水量 mm			日照時間 h		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
長野	本年	27.4	25.9	24.8	46.5	10.0	163.0	83.3	60.5	57.5
	平年	26.2	25.6	24.4	27.4	40.1	44.4	73.7	65.1	63.0
松本	本年	26.7	24.2	24.8	14.5	42.0	108.5	80.6	56.2	63.5
	平年	25.8	25.3	24.2	30.0	27.2	44.4	72.6	65.7	64.6
諏訪	本年	25.8	23.7	24.3	15.0	77.5	118.0	84.1	62.0	64.3
	平年	24.8	24.3	23.3	41.1	53.1	46.6	71.8	63.5	64.1
軽井沢	本年	21.3	19.7	20.4	17.0	74.0	132.0	59.8	39.4	44.2
	平年	21.4	21.0	20.1	36.5	47.3	57.8	58.0	51.1	53.6
飯田	本年	26.8	24.9	26.0	81.0	63.5	61.5	72.2	62.5	59.8
	平年	26.0	25.6	24.6	38.2	49.8	61.3	69.5	62.8	62.8

高気圧に覆われて晴れた日もあったが、前線や湿った空気の影響で、曇りや雨の日が多く、雷雨となった所もあった。8 日は長野市で突風が発生した。

1 水 稲

- (1) 水稻の生育状況
水稻の生育概況につきましては、農業試験場ホームページ内の「生育調査」欄に掲載されている「水稻の生育状況 (令和 8 年度)」をご参照ください。
農業試験場ホームページ
(<https://www.pref.nagano.lg.jp/nogyoshiken/teirei/index.html>)

(2) 病虫害の発生状況

①いもち病

8 月上旬の巡回調査における発病地点率は、東信地域及び北信地域ではほぼ平年並、南信地域及び中信地域では平年と比べ低かった。
発病株率及び上位葉発病株率は、全県では平年と比べ低かった (第 1 表)。

第 1 表 8 月上旬の葉いもち発生状況

地域	発病地点率 (%)		平均発病株率 (%)		平均上位葉発病株率 (%)	
	平年	本年	平年	本年	平年	本年
東信	38.8	40.0	10.0	2.4	0.5	0.0
南信	21.2	6.7	3.2	2.0	0.6	0.0
中信	8.4	0.0	1.6	0.0	0.5	0.0
北信	38.0	35.7	7.0	2.7	1.1	0.0
県全体	25.3	19.7	5.1	1.7	0.7	0.0

(注) 発病地点率は巡回調査地点の中で発生が確認された地点の割合を地域ごとに示したもの
平均発病株率は巡回調査地点の発病株率を地域ごとに平均したもの
平均上位葉発病株率は巡回調査地点の上位葉 (止葉・次葉) の発病株率を地域ごと平均したもの
平年は 2016～2025 年の平均値
調査地点数は第 3 表と同じ

②紋枯病

8 月上旬の巡回調査における発病地点率は、東信地域、南信地域及び中信地域では平年と比べ低く、北信地域では平年並であった。発病株率は、東信地域では平年と比べやや低く、南信地域及び中信地域では平年と比べ低かった。一方、北信地域では平年と比べ高かった。
8 月下旬の巡回調査における発病地点率は、東信地域では平年と比べやや低く、南信地域及び中信地域では平年と比べ低かった。一方、北信地域では平年と比べ高かった。平均発病株率は、東信地域ではやや高く、南信地域及び中信地域では平年と比べ低かった。一方、北信地域では平年と比べ高かった (第 2 表)。

第 2 表 紋枯病の発生状況

地域	発病地点率 (%)				平均発病株率 (%)			
	8 月上旬		8 月下旬		8 月上旬		8 月下旬	
	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年
東信	29.3	20.0	57.3	53.3	3.4	2.8	11.8	13.3
南信	15.7	0.0	34.9	13.3	1.3	0.0	4.1	0.5
中信	22.5	5.9	48.7	5.9	2.1	1.2	9.1	3.3
北信	14.2	14.3	36.5	50.0	1.1	3.1	4.3	7.3
県全体	20.2	9.8	43.8	29.5	1.9	1.4	7.2	6.0

(注) 発病地点率は巡回調査地点の中で発生が確認された地点の割合を地域ごとに示したもの
平均発病株率は巡回調査地点の発病株率を地域ごとに平均したもの
平年は 2016～2025 年の平均値
なお、調査地点数は第 3 表と同じ

③白葉枯病

8月上旬の巡回調査では、発生はみられなかった。

④縞葉枯病

8月下旬の巡回調査における発病地点率は、東信地域、中信地域及び北信地域では平年と比べ高く、南信地域では発生はみられなかった。発病株率は、東信地域では平年と比べ低かったが、中信地域及び北信地域では平年と比べ高かった（第3表）。

第3表 8月下旬の縞葉枯病の発生状況

地域	調査 地点数	発病地点率(%)		平均発病株率(%)	
		平年	本年	平年	本年
東信	15	18.0	20.0	4.9	1.1
南信	15	0	0	0	0
中信	17	0.5	17.7	0	3.3
北信	14	10.8	21.4	1.1	2.9
県全体	61	6.7	14.7	1.3	1.8

(注) 発病地点率は巡回調査地点の中で発生が確認された地点の割合を地域ごとに示したもの
平均発病株率は巡回調査地点の発病株率を地域ごとに平均したもの
平年は2016～2025年の平均値

⑤ヒメトビウンカ

8月上旬のすくい取り調査（本田ネット20回振）における捕獲頭数（成虫）は、東信地域ではほぼ平年並、南信地域、中信地域及び北信地域では平年と比べ多かった。

8月下旬のすくい取り調査（本田ネット20回振）における捕獲頭数（成虫）は、東信地域、南信地域及び中信地域では平年と比べ多く、北信地域では平年と比べやや多かった（第4表）。

第4表 ヒメトビウンカ成虫（短翅も含む）の平均捕獲頭数（頭）

地域	調査 地点数	8月上旬		8月下旬	
		平年	本年	平年	本年
東信	15	11.6	10.2	43.6	57.1
南信	15	5.2	10.7	8.4	34.5
中信	17	11.4	21.5	23.3	64.9
北信	14	13.8	36.5	50.2	52.9
県全体	61	10.4	19.4	30.1	52.7

(注) 平均捕獲数は巡回調査地点の捕獲数を地域ごとに平均したもの
平年は2016～2025年の平均値

⑥ツマグロヨコバイ

8月上旬のすくい取り調査（本田ネット20回振）における成虫の捕獲頭数は、東信地域では平年と比べ多く、中信地域では平年と比べやや多く、南信地域及び北信地域では平年と比べ少なかった。

8月下旬のすくい取り調査（本田ネット20回振）における捕獲頭数（成虫）は、東信地域では平年と比べ多く、南信地域及び北信地域では平年と比べ少なく、中信地域ではほぼ平年並であった。

⑦セジロウンカ

8月下旬のすくい取り調査（本田ネット20回振）における捕獲頭数は、成虫及び幼虫のいずれも平年と比べ少なかった（第5表）。

第5表 8月下旬のセジロウンカの平均捕獲頭数（頭）

地域	調査 地点数	成虫(短翅含む)		幼虫	
		平年	本年	平年	本年
東信	15	4.4	0.9	2.1	1.1
南信	15	6.0	0.7	3.2	0.1
中信	17	6.4	0.9	3.6	0.3
北信	14	9.7	2.2	3.1	0.8
県全体	61	6.7	1.2	3.1	0.5

(注) 平均捕獲数は巡回調査地点の捕獲数を地域ごとに平均したもの
平年は2016～2025年の平均値

⑧トビイロウンカ

上田市、飯田市、伊那市、南木曽町、安曇野市、須坂市に設置した予察灯では、誘殺されなかった（8月31日現在）。

8月上旬と下旬の巡回調査ほのすくい取り調査（本田ネット20回振）では、捕獲されなかった。

⑨イナゴ

8月下旬のすくい取り調査（本田ネット20回振）における捕獲頭数は、全般的に平年と比べ少なかった。

⑩斑点米カメムシ類

8月上旬のすくい取り調査（本田ネット20回振）における捕獲頭数は、東信地域、南信地域及び北信地域では平年と比べ多く、中信地域では平年並であった。

8月下旬のすくい取り調査（本田ネット20回振）における捕獲頭数は、全般的に平年と比べ多かった（第6表）。

第6表 斑点米カメムシ類平均捕獲数（頭）

地域	8月上旬		8月下旬	
	平年	本年	平年	本年
東信	0.5	5.9	0.6	16.8
南信	1.5	3.4	9.9	17.0
中信	3.8	4.2	2.4	5.8
北信	0.4	1.7	1.0	3.6
県全体	1.7	3.8	3.7	10.8

（注）発生種の内訳：アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、ホソハリカメムシ、トゲシラホシカメムシ類、クモヘリカメムシ、アカヒメヘリカメムシ ＊捕獲割合の高い順に記載
（注）平均捕獲数は、巡回調査地点の地域ごとに平均したもの
平年は2016～2025年の平均値

⑪フタオビコヤガ（イネアオムシ）

8月上旬及び下旬の25株払落し調査では、全般的に平年と比べ少なかった。

果樹の生育概況

令和8年産の果樹生育概況は、果樹試験場ホームページの定例調査にある「令和8年の生態調査結果」および南信農業試験場ホームページの調査速報にある「令和8年果樹生態調査」を参照ください。
果樹試験場ホームページ
(<https://www.pref.nagano.lg.jp/kajushiken/chosa/teirei/index.html>)
南信農業試験場ホームページ
(<https://www.pref.nagano.lg.jp/nannoshiken/joho/sokuho/index.html>)

2 りんご

(1) 病害虫の発生状況

①褐斑病

9月上旬の巡回調査では、東信地域、南信地域、北信地域で発生がみられ、発生量は平年並であった。

②輪紋病

9月上旬の巡回調査では、東信地域、北信地域の一部のほ場でわずかに発生がみられた。

③炭疽病

9月上旬の巡回調査では、東信地域、北信地域の一部で発生がわずかにみられた。

④キンモンホソガ

8月下旬の巡回調査では、県下全域の所々で葉の食害がみられた。一部では

被害葉率5～6％とやや高いところがあった。
須坂市（果樹試験場）のフェロモントラップによる誘殺頭数は、平年と比べ少なかった（第1表）。

第1表 キンモンホソガのフェロモントラップ誘殺消長（頭）

須坂市（果樹試験場）						
区分	8月					
半旬	1	2	3	4	5	6
平年	184.9	254.2	342.5	411.3	307.2	377.6
前年	73	39	86	89	135	274
本年	36	123	177	24	64	87

平年は2016年から2025年までの平均値

⑤シンクイムシ類

9月上旬の巡回ほ場では、果実被害はみられなかった。
須坂市（果樹試験場）のモモシンクイガのフェロモントラップにおける8月の誘殺頭数は平年より多かった（第2表）。またスモモヒメシンクイの8月の誘殺頭数はほぼ平年並であった（第3表）。

第2表 モモシンクイガのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

須坂市（果樹試験場）						
区分	8月					
半旬	1	2	3	4	5	6
平年	10.2	10.4	8.6	5.3	7.3	5.3
前年	20	6	1	2	13	5
本年	24	21	18	11	38	73

平年は2016年から2025年までの平均値

第3表 スモモヒメシンクイのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

須坂市（果樹試験場）						
区分	8月					
半旬	1	2	3	4	5	6
平年	11.9	7.2	5.5	7.7	11.9	19.2
前年	12	9	2	1	7	27
本年	15	5	6	4	14	25

平年は2016年から2025年までの平均値

⑥ハダニ類

8月下旬の巡回調査では、多くの地点でリンゴハダニやナミハダニの発生がみられた。5地点では、成若幼虫数が10葉あたり100頭を超えた。

⑦リンゴコカクモンハマキ

8月下旬の巡回調査では、新梢の被害はみられなかった。
須坂市（果樹試験場）のフェロモントラップによる誘殺はなかった（第4表）。

第4表 リンゴコカクモンハマキのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）
須坂市（果樹試験場）

区分	8月					
	1	2	3	4	5	6
半旬						
平年	0	0	0	0.1	0	0.1
前年	0	0	0	0	0	0
本年	0	0	0	0	0	0

平年は2016年から2025年までの平均値

3 な し

（1）病害虫の発生状況

①うどんこ病

8月下旬の巡回調査で、発生はみられなかった。

②黒星病

8月下旬の巡回調査で、発生はみられなかった。

③黒斑病

8月下旬の巡回調査で、発生はみられなかった。

④輪紋病

8月下旬の巡回調査で、果実被害はみられなかった。

⑤枝幹性病害（胴枯病・枝枯病）

8月下旬の巡回調査で、発病はみられなかった。

⑥カメムシ類

8月下旬の巡回調査で、園地内への飛来、果実被害はみられなかった。

高森町（南信農業試験場）のフェロモントラップへのチャバネアオカメムシの誘殺数は22頭で、昨年の132頭に比べ少なかった（第1表）。

第1表 カメムシ類のフェロモントラップへの誘殺消長（頭）
高森町（南信農業試験場）

区分	月	8月						9月
	半旬	1	2	3	4	5	6	1
クサギカメムシ	平年	0.2	0	0.6	0.2	0.2	1	0.2
	前年	0	0	0	0	0	0	0
	本年	0	0	0	0	0	1	1
チャバネアオカメムシ	平年	23.8	11.9	15.3	19.6	10.0	11.2	10.5
	前年	43	8	25	20	23	13	16
	本年	2	1	0	5	5	9	9

平年は2016年から2025年までの平均値

⑦ナシヒメシクイ

8月下旬の巡回調査で、果実被害はみられなかった。

高森町（南信農業試験場）でのフェロモントラップでの誘殺消長は8月を通じてやや多く、第3世代成虫の誘殺は昨年と同様に下旬から多くなっている（第2表）。

第2表 ナシヒメシクイのフェロモントラップへの誘殺消長（頭）
高森町（南信農業試験場）

区分	8月					
	1	2	3	4	5	6
半旬						
平年	4.8	4.8	5.5	8.5	11.5	18.8
前年	6.5	6.5	7.0	13.0	18.0	32.0
本年	13.0	11.5	14.0	18.5	24.0	35.5

平年は2016年から2025年までの平均値

⑧モモシクイガ

8月下旬の巡回調査で、果実被害はみられなかった。

高森町（南信農業試験場）のフェロモントラップへの誘殺はなく、発生消長は判然としなかった（第3表）。

第3表 モモシンクイガのフェロモントラップへの誘殺消長（頭）
高森町（南信農業試験場）

区分	8月					
半旬	1	2	3	4	5	6
平年	0.5	0.6	0.5	0.4	0.4	1.1
前年	1.5	0.5	0	0.5	2	1
本年	0	0	0	0	0	0

平年は2016年から2025年までの平均値

⑨ハダニ類

8月下旬の巡回調査では、ナミハダニ、カンザワハダニとも寄生量は少なかった。

⑩リンゴコカクモンハマキ

8月下旬の巡回調査で、果実被害はみられなかった。
高森町（南信農業試験場）のフェロモントラップでは、第6半旬から第2世代成虫が誘殺された（第4表）。

第4表 リンゴコカクモンハマキのフェロモントラップへの誘殺消長（頭）
高森町（南信農業試験場）

区分	8月					
半旬	1	2	3	4	5	6
平年	0.2	0.2	0.2	0.2	0.1	0.4
前年	0	0	0	0	0	0
本年	0	0	0	0	0	1.5

平年は2016年から2025年までの平均値

4 もも

(1) 病害虫の発生状況

①黒星病

8月上旬の巡回調査では、発病はみられなかった。

②せん孔細菌病

8月下旬の巡回調査では、発病はみられなかった。

③灰星病

8月下旬の巡回調査では、東信地域のほ場でわずかに発病がみられた。

④シクイムシ類

8月下旬の巡回調査では、被害果実はみられなかった。
長野市のモモシンクイガのフェロモントラップでは8月の誘殺はなかった

（第1表）。

第1表 モモシンクイガのフェロモントラップによる誘殺消長（頭） 長野市

区分	8月					
半旬	1	2	3	4	5	6
平年	—	—	—	—	—	—
前年	0	0	0	0	0	0
本年	0	0	0	0	0	0

調査ほ場を2024年に変更したため、平年値はない

⑤モモハモグリガ

9月上旬の巡回調査では、被害葉はみられなかった。
須坂市（果樹試験場）のフェロモントラップによる誘殺頭数は、平年と比べ少なかった（第2表）。

第2表 モモハモグリガのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）
須坂市（果樹試験場）

区分	8月					
半旬	1	2	3	4	5	6
平年	190.5	86.4	62.2	34.6	44.5	59.4
前年	1	1	1	1	1	1
本年	6	4	6	1	3	10

平年は2016年から2025年までの平均値

5 ぶどう

(1) 病害虫の発生状況

①さび病

9月上旬の巡回調査では、発生はみられなかった。

②べと病

8月下旬の巡回調査では、発生がみられなかったが、9月上旬の巡回調査では半数の調査地点で発生がみられた。

③黒とう病

9月上旬の巡回調査では、調査対象ほ場に発生はみられなかったが、東信地域の対象外ほ場では発生を観察した。

④クビアカスカシバ

9月上旬の巡回調査では主幹、主枝への加害はみられなかった。
小布施町のフェロモントラップによる誘殺頭数は、ほぼ平年並であった（第

1表)。

第1表 クビアカスカシバのフェロモントラップによる誘殺消長(頭) 小布施町

区分	8月					
半旬	1	2	3	4	5	6
平年	1.9	1.8	0.6	0.2	0.2	0.3
前年	3	3	0	0	0	0
本年	2	1	4	1	0	0

平年は2016年から2025年までの平均値

⑤チャノキイロアザミウマ

8月下旬の巡回調査では、被害葉はみられなかった。

6 か き

(1) 病害虫の発生状況

①炭疽病

8月上旬の巡回調査で、発生はみられなかった。

②円星落葉病

8月上旬の巡回調査で、発生はみられなかった。

③カキグダアザミウマ

8月上旬の巡回調査で、果実被害はみられなかった。

④カキノヘタムシガ

8月上旬の巡回調査で、果実被害はみられなかった。

⑤ハマキムシ類

8月上旬の巡回調査で、果実被害はみられなかった。

⑥フジコナカイガラムシ

8月上旬の巡回調査で、寄生はみられなかった。

⑦ハマキムシ類

8月上旬の巡回調査では、発生はみられなかった。

7 野菜・花き

(1) 病害虫の発生状況

①トマトの病害虫

8月上旬及び下旬の巡回調査では、東信地域の露地栽培で輪紋病の発生、オオタバコガによる被害、ハモグリバエ類の寄生のほか、ハダニ類の多発が目立った。

中信地域の露地栽培オオタバコガによる加害がみられ、露地栽培ではオンシ

ツコナジラミの寄生がみられた。

北信地域の施設栽培では輪紋病の発生、ハモグリバエ類、オンシツコナジラミの寄生がみられた。

②きゅうりの病害虫

8月上旬及び下旬の巡回調査では、中信地域の施設栽培でアザミウマ類、ワタヘリクロノメイガの寄生がみられた。

北信地域の施設栽培では、うどんこ病、褐斑病、つる枯病の発生とハモグリバエ類、アザミウマ類、アブラムシ類の寄生がみられた。

また、北信地域の露地栽培では灰色かび病およびべと病の発生とオオタバコガ、ハモグリバエ類、アザミウマ類の寄生がみられた。

③いちごの病害虫

8月上旬及び下旬の巡回調査では、アザミウマ類の寄生がみられた。

④キャベツの病害虫

8月上旬及び下旬の巡回調査では、東信地域でウワバ類を主としたチョウ目害虫による加害、一部のほ場では、アザミウマ類の寄生もみられた。

南信地域ではウワバ類、北信地域では、ウワバ類、モンシロチョウ、シロイチモジヨトウなどチョウ目害虫による加害がみられた。

⑤ブロッコリーの病害虫

8月上旬及び下旬の巡回調査では、東信地域のほ場で黒すす病、黒腐病の発生がみられ、一部のほ場ではコナガ、アザミウマ類の寄生が目立った。

⑥はくさいの病害虫

8月上旬及び下旬の巡回調査では、東信地域の一部のほ場でピシウム腐敗病、べと病の発生、チョウ目害虫の加害がみられた。

⑦レタスの病害虫

8月上旬及び下旬の巡回調査では、東信および中信地域の一部ほ場ですそ枯病、東信地域の一部のほ場で菌核病の発生がみられた。

⑧セルリーの病害虫

8月上旬及び下旬の巡回調査では、病害虫の発生はみられなかった。

⑨アスパラガスの病害虫

8月上旬及び下旬の巡回調査では、東信、南信、北信地域の雨よけおよび露地栽培ほ場で茎枯病の発生がみられ、全地域でアザミウマ類の寄生がみられた。

また、南信地域の雨よけ栽培ほ場、および北信地域の露地栽培ほ場でハダニ類の寄生がみられた。

⑩ねぎの病害虫

8月上旬及び下旬の巡回調査では、南信および中信地域で黒斑病、さび病の発生、アザミウマ類、ネギハモグリバエの寄生がみられた。また、中信地域ではチョウ目害虫による加害もみられた。

⑪ながいものアブラムシ類

8月下旬の巡回調査では、北信および中信地域で発生はみられなかった。

⑫きくの病害虫

8月上旬の巡回調査では、東信地域でアザミウマ類による花卉への加害がみられた。

⑬コナガ（アブラナ科野菜）

フェロモントラップによる誘殺頭数は、塩尻市、小諸市、長野市では、8月を通して平年よりも少なかった。

上田市では、概ね平年並みであった。

原村では、第1～第4半旬までは平年よりも少なかったが、第5半旬は平年よりも多くなり、第6半旬は平年並みであった。

朝日村では、第1半旬は平年よりもやや多かったが、第2半旬以降は平年よりも少なかった（第1表）。

第1表 コナガのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分	8月					
		半旬	1	2	3	4	5	6
塩尻市宗賀 (野菜花き試験場)	キャベツ・ はくさい	平年	10.4	9.1	7.9	8.5	10.5	8.2
		本年	2	4	2	2	0	1
小諸市山浦 (野菜花き試験場 佐久支場)	レタス	平年	14.7	14.9	13.7	10.6	11.0	13.2
		本年	13	3	1	3	4	2
上田市菅平 (地区発生予察ほ)	はくさい	平年	7.4	5.3	5.5	6.1	6.6	4.5
		本年	10	5	8	3	7	6
原村判之木 (防除適期決定ほ)	ブロッコリー	平年	39.5	41.9	48.3	41.5	25.8	34.0
		本年	9	22	20	21	89	33
朝日村古見 (地区発生予察ほ)	はくさい	平年	13.4	29.5	24.8	17.5	21.6	31.9
		本年	20	23	17	9	8	5
長野市上ヶ屋 (地区発生予察ほ)	キャベツ	平年	18.7	25.1	21.5	27.6	31.8	46.4
		本年	2	12	1	2	1	5

平年は2016年から2025年までの平均値、朝日村は2019年から2025年までの平均値

⑭オオタバコガ

フェロモントラップによる誘殺頭数は、塩尻市では8月を通して平年よりも

多かった。

小諸市では第1～5半旬までは平年とよりも多かったが、第6半旬は平年よりもやや少なかった。

須坂市では第1半旬は平年よりも多かったが、第2半旬以降は平年よりも少なかった（第2表）。

第2表 オオタバコガのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分	8月					
		半旬	1	2	3	4	5	6
塩尻市宗賀 (野菜花き試験場)	キャベツ・ はくさい	平年	32.3	43.6	46.7	49.5	48.6	42.4
		本年	87	75	56	70	60	80
小諸市山浦 (野菜花き試験場 佐久支場)	レタス	平年	24.0	37.7	35.7	37.6	44.7	54.5
		本年	29	67	56	44	57	46
須坂市小河原 (農業試験場)	さつまいも ・水稻	平年	12.7	24.6	30.1	41.2	33.7	22.4
		本年	32	18	23	10	11	18

平年は2016年から2025年までの平均値

⑮ヨトウガ類

ヨトウガのフェロモントラップによる誘殺頭数は、塩尻市では第1～第3半旬は平年よりも少なかったが、第4半旬以降は平年並み～やや多かった。

須坂市では、ほぼ平年並であった（第3表）。

ハスモンヨトウのフェロモントラップへの誘殺頭数は、塩尻市では、第1～第2半旬は平年よりも多かったが、第3～第4半旬は平年よりも少なくなり、第5～第6半旬は平年よりもやや多かった。

須坂市では、第1～第4半旬までは平年よりも少なかったが、第5半旬から平年よりも多くなり、第6旬はかなり多かった。

上田市では、8月を通して平年よりも少なかった（第4表）。

シロイチモジヨトウのフェロモントラップによる誘殺頭数は、塩尻市では、第1～第2半旬は平年よりも多かったが、第3～第4半旬は平年よりも少なくなり、第5から再び多くなり、第6半旬はかなり多かった。

長野市では、第2半旬に発生のパークがみられ、平年よりも多かった（第5表）。

第3表 ヨトウガのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分	8月					
		半旬	1	2	3	4	5	6
塩尻市宗賀 (野菜花き試験場)	キャベツ・ はくさい	平年	23.7	18.0	17.7	19.1	20.4	22.0
		本年	13	4	12	28	20	25
須坂市小河原 (農業試験場)	さつまいも ・水稻	平年	0.2	0.7	0.8	1.4	2.7	4.5
		本年	0	0	0	2	1	4

平年は2016年から2025年までの平均値

第4表 ハスモンヨトウのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分	8月					
		半旬	1	2	3	4	5	6
塩尻市宗賀 (野菜花き試験場)	キャベツ・ はくさい	平年	41.8	42.8	53.9	61.3	66.6	62.8
		本年	82	69	34	48	76	79
須坂市小河原 (農業試験場)	さつまいも ・水稻	平年	21.5	46.3	48.4	49.2	39.7	77.3
		本年	9	3	11	28	60	420
上田市菅平 (地区発生予察ほ)	はくさい	平年	6.3	7.4	6.9	7.9	13.2	17.5
		本年	2	2	3	2	0	5

平年は2016年から2025年までの平均値、須坂は2024年を除く10年の平均値

第5表 シロイチモジヨトウのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分	8月					
		半旬	1	2	3	4	5	6
塩尻市宗賀 (野菜花き試験場)	キャベツ・ はくさい	平年	15.3	18.2	20.0	23.9	18.9	30.4
		本年	36	21	8	7	31	121
長野市上ヶ屋 (地区発生予察ほ)	キャベツ	平年	1.1	1.1	1.5	3.4	2.9	1.6
		本年	5	17	9	8	3	5

平年は2016年から2025年までの平均値、長野市は2018年から2025年までの平均値

⑯ハモグリバエ類（野菜・花き全般）

8月上旬及び下旬の巡回調査では、東信地域のきく（露地栽培）、トマト（露地栽培）南信地域及び中信地域のねぎ、北信地域のトマト（施設栽培）、きゅうり（施設および露地栽培）で寄生がみられた。

⑰アブラムシ類（野菜・花き全般）

黄色粘着トラップによるアブラムシ類有翅虫の誘殺頭数は、塩尻市宗賀では、第1半旬は平年よりも多く、第2半旬以降は平年並み～やや多かった。

小諸市では、平年よりも多かった第5半旬を除き、少なかった。

上田市では、ほぼ平年並であった。

富士見町では、第4半旬で誘殺頭数が増加し、発生ピークとなった。

塩尻市洗馬では、8月を通して平年よりも少なかった。

長野市では、第1～第4半旬は概ね平年並みであったが、第5～第6半旬は、平年よりも多かった（第6表）。

第6表 アブラムシ類有翅虫の黄色粘着トラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分	8月					
		半旬	1	2	3	4	5	6
塩尻市宗賀 (野菜花き試験場)	キャベツ・ はくさい	平年	8.5	5.8	8.3	13.1	17.9	22.1
		本年	34	7	13	17	25	19
小諸市山浦 (野菜花き試験場 佐久支場)	レタス	平年	10.1	9.6	17.8	28.0	20.8	36.0
		本年	8	7	4	11	44	27
上田市菅平 (地区発生予察ほ)	はくさい	平年	1.2	1.8	2.4	1.9	1.4	2.0
		本年	1	1	2	1	0	3
富士見町立沢 (地区発生予察ほ)	きく	平年	－	－	－	－	－	－
		本年	2	1	1	10	3	7
塩尻市洗馬 (地区発生予察ほ)	レタス	平年	12.9	9.2	15.2	26.1	28.6	56.6
		本年	5	3	1	0	10	19
長野市上ヶ屋 (地区発生予察ほ)	キャベツ	平年	6.2	3.2	5.1	6.0	5.8	6.4
		本年	4	2	6	6	13	11

平年は塩尻市・小諸市は2017年から2025年までの平均値

上田市・長野市は2018年から2025年までの平均値

富士見町は調査地点変更により平年値無し

⑱アザミウマ類（ネギアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ、ミカンキイロアザミウマなど）

青色粘着トラップによるアザミウマ類の誘殺頭数は、上田市では、第1～第5半旬は概ね平年並みであったが、第6半旬は少なかった。

富士見町では、第2～第3半旬、第4～第5半旬、第6半旬ごとに誘殺数が増加した。

塩尻市では、第1半旬から第2半旬にかけては平年よりもかなり多かったが、第3半旬以降は減少し、平年並み前後の誘殺数であった。

長野市では、8月を通して平年よりも少なかった（第7表）。

第7表 アザミウマ類の青色粘着トラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分	8月					
		半旬	1	2	3	4	5	6
上田市菅平 (地区発生予察ほ)	はくさい	平年	13.8	8.4	12.6	9.4	16.4	23.5
		本年	11	10	6	12	18	13
富士見町立沢 (地区発生予察ほ)	きく	平年	－	－	－	－	－	－
		本年	10	20	23	45	42	80
塩尻市洗馬 (地区発生予察ほ)	レタス	平年	67.0	36.9	38.5	42.6	34.0	36.3
		本年	302	103	53	31	50	25
長野市上ヶ屋 (地区発生予察ほ)	キャベツ	平年	38.0	43.9	78.3	50.4	63.5	71.8
		本年	11	5	13	23	31	9

平年は塩尻市では2017年から2025年までの平均値

上田市・長野市は2018年から2025年までの平均値

富士見町は調査地点変更により平年値無し